

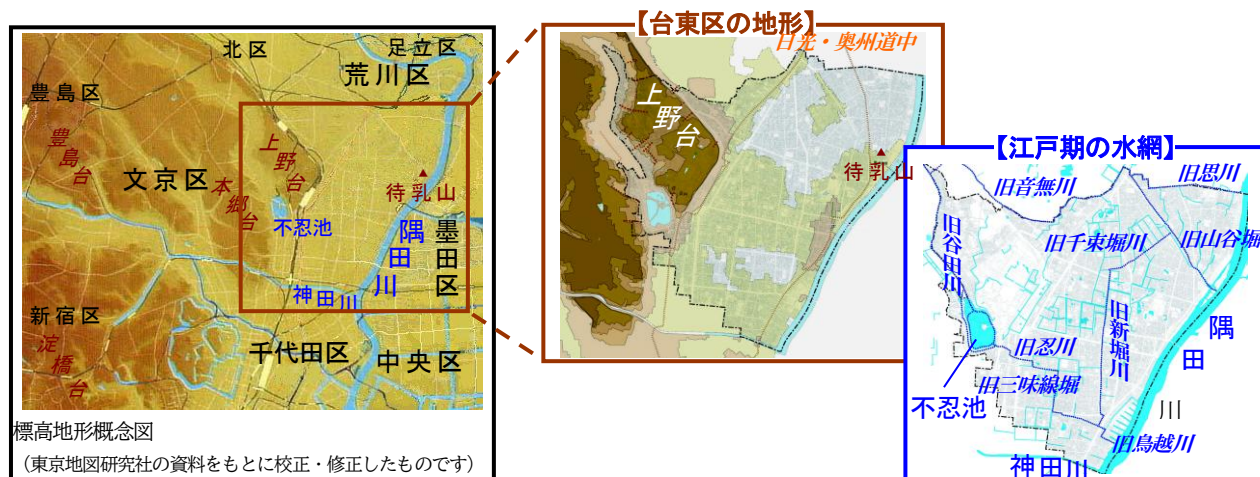
●台東区の位置と面積

台東区の位置は、東経 139° 46′ 47″ 北緯 35° 42′ 46.5″（上野公園 7 番 20 号、国立科学博物館）で、東京 23 区部の中心よりやや東側に位置し、南は千代田区と神田川を隔てて中央区に接し、西は文京区、北は荒川区、東は隅田川を境にして姉妹区の墨田区に隣接しています。

面積は、10.11 km²と 23 区で最も狭く、区部の 1.6%、東京都全体の 0.46% を占めています。

●武蔵野台地と下町低地

台東区の地勢は、武蔵野台地の東端と隅田川を臨む沖積低地、いわゆる下町低地から成り立っています。武蔵野台地は、箱根山や富士山の火山灰が降り積もってきた洪積層で、上野台、本郷台、豊島台、淀橋台、目黒台、荏原台、久が原台と連なる高台の総称でもあります。また、利根川や入間川が合流するかつての隅田川が、土砂を運び続けたことにより、川岸では駒形付近が 4m、浅草寺付近が 3m、蔵前から千束三丁目までが 2m と、ゆるやかな微高地となっています。このため、内陸部へ海が入り込んでいた原始時代には、上野台は半島、下谷や浅草の一帯は海、待乳山と鳥越付近には島が存在していたとされています。



台東区内には、谷田川や忍川といった自然河川のほか、江戸期に造作された水路が張り巡らされていました。しかし、関東大震災を契機とした都市化とともに、戦後の焦土処理や道路需要への対応のため、次第にこれらの埋立てや暗渠化が進み、現在では隅田川と神田川だけが、その姿を現しています。

●上野台（上野の山）

上野公園や谷中の寺院・墓地が立地する上野台は、旧谷田川（藍染川）の谷筋を挟んで西側の本郷台と相対し、標高は約 20m となっています。



JR 鶯谷駅から臨む上野台

● 不忍池

当地一帯は東京湾の入り江でありましたが、その後の海岸線の後退とともに取り残されて池になったと考えられています。周囲約 2 km という現形は、明治 17 年の競馬場建設に伴う埋め立てにより、ほぼ出来上がりました。



不忍池

● 隅田川

隅田川の原形は、関東山地を水源とする入間川で、江戸時代になって、江戸と川越との水運確保のため荒川の流路を入間川に付け替え、この時から今の隅田川は、「荒川」と呼ばれるようになりました。明治後期の大水害を機に荒川放水路が造られ、昭和 39 年の河川法改正により、この人工河川が「荒川」に、自然河川である荒川は「隅田川」となり、荒川の支流と位置づけられました。



白鬚橋（大正 3 年 竣工）



言問橋（昭和 3 年 竣工）



駒形橋（昭和 2 年 竣工）



厩橋（明治 7 年 竣工）



桜橋（歩行者専用道
昭和 60 年 竣工）



吾妻橋（昭和 2 年 竣工）



蔵前橋（昭和 2 年 竣工）

● 待乳山

待乳山は、もともと本郷台から続く台地の一部でしたが、海の激しい浸食により削られ、現在の「山」の部分だけが残されました。標高は 9.8m で、下町低地では珍しい自然の高台です。



本龍院待乳山聖天

● 神田川

井の頭池を水源とする神田川は、江戸初期には江戸城の東（日比谷入江）に注いでいましたが、洪水から江戸城や蔵地を守るため本郷台を掘削するという大規模な土木工事が行われ、直接隅田川に流れるようになりました。